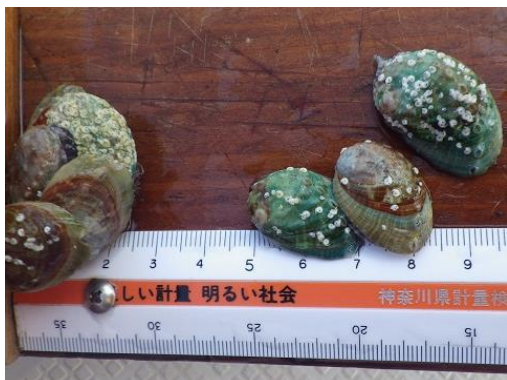


## ●浜の話題

- 11月27日、小田原市漁協と（公財）相模湾水産振興事業団は、小田原地先にアワビ種苗46,000個・サザエ種苗9,600個を放流しました。水深3m前後の浅場で磯根漁場を中心に放流を行い、特にアワビ種苗は、船上からの放流では魚類や甲殻類の食害を受け易いため、潜水作業で放流しました。この種苗放流は小田原市の補助を受けて毎年実施されており、地先の磯根資源を下支えする取り組みとなっています。今回放流した種苗も大きく成長して地先の漁業に寄与することが期待されます。



放流前のアワビ種苗の測定



ダイバーによるアワビ種苗の放流

- 12月7日、小坪漁協所属の大竹組合長（大竹丸）、座間指導漁業士（ヴェルデ丸）および植原さん（まさき丸）の指導のもと、小坪小学校の3年生と5年生がワカメ種挿し体験をしました。70名あまりの児童が、ワカメの種糸を幹縄にはさみ込む作業を行い、2月の収穫体験を楽しみにしている様子でした。
- 12月7日、横須賀市大楠漁協所属の堀江さん（紋四郎丸）のしらす加工・直売所に、地元の大楠小学校の児童20名が校外学習「町探検」で訪れました。参加した児童の関心は高く、堀江さんがしらす船びき網漁の一連の作業について説明すると、「透明な生しらすは茹でるとなぜ白くなるの？」と聞かれました。また当日は朝どれの釜揚げしらすの試食も行われ、皆大喜びだったそうです。
- 12月7日、県水産技術センターの普及指導員2名が、和歌山県串本町にある和歌山県水産試験場を視察しました。同場では磯焼け対策として、高水温でも成長が早いクロメ（カジメに近縁な海藻）の作出に成功しており、当日は藻類の培養方法について情報収集を行うとともに、増殖試験に使用している機器や施設を見学しました。



和歌山県水試の飼育実験室



高水温適性クロメの種苗

- 12月9日、県水産課は横須賀市の新安浦港で平成30年度第2回漁業体験研修を開催しました。これは漁業就業希望者に実際の漁業現場を体験してもらう研修で、研修生は横須賀市東部漁協横須賀支所

所属の譲原青年漁業士（武丸）から現場の船上で刺網漁業や養殖業に関する講義を受け、就業の心構え、漁具や機材の取り扱い、カキ養殖の方法についての説明に、熱心に耳を傾けていました。



カキ養殖イカダで説明を受ける研修生

- 12月11日、県水産技術センターは同センター会議室で「トラフグ研修会」を開催し、長井町漁協、横須賀市大楠漁協、城ヶ島漁協の漁業者及び関係機関30名の参加がありました。研修会では同センター栽培推進部研究員と（国研）水産研究・教育機構の研究者から、トラフグの生態や回遊実態等について話題提供がありました。トラフグは近年、冬場の貴重な収入源となっており、参加した漁業者は熱心に説明を聴いていました。



トラフグ研修会の様子

## ●お知らせ

- 12月29日（土曜日）と30日（日曜日）午前5時50分から8時頃まで、三浦市の金田漁港内にある金田海業センターで「金田湾朝市歳末セール」が開催されます。当日はスズキや地ダコ、ワカメ、ナマコなどの地魚のほか、ダイコンやキャベツなどの地元野菜、洋ランなどが販売されます。また29日にはスズキのあら汁の無料サービスもありますので、皆様お誘いあわせの上お越しください。